

富津市在宅医療・介護連携推進会議 会議録

1	会議の名称	令和5年度第2回富津市在宅医療・介護連携推進会議																																																						
2	開催日時	令和6年3月18日（月） 18時30分～20時00分																																																						
3	開催場所	Zoomによるオンライン及び富津市役所5階502・503会議室																																																						
4	審議等事項	(1)各ワーキンググループにおける令和5年度の取組について (2)今後の在宅医療・介護連携推進会議の方針について																																																						
5	出席者名	<p>(委員)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>氏名（敬称略）</th> <th>参加方法</th> <th>氏名（敬称略）</th> <th>参加方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三枝 奈芳紀</td> <td>来庁</td> <td>竹内 修</td> <td>Zoom</td> </tr> <tr> <td>田中 計</td> <td>来庁</td> <td>川口 哲也</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>熊切 篤</td> <td>来庁</td> <td>水町 裕義</td> <td>Zoom</td> </tr> <tr> <td>大島 拓二郎</td> <td>来庁</td> <td>中野 匡</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>宮野 京子</td> <td>Zoom</td> <td>小柴 奈美</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>西川 加代</td> <td>来庁</td> <td>重田 友理</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>山中 しのぶ</td> <td>来庁</td> <td>牧 達人</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>亀田 兼佑</td> <td>来庁</td> <td>有江 直樹</td> <td>Zoom</td> </tr> <tr> <td>和泉 喜章</td> <td>Zoom</td> <td>早川 清子</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>村田 泉</td> <td>来庁</td> <td>小幡 伸吾</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>門屋 千鶴</td> <td>来庁</td> <td>三辻 暁美</td> <td>来庁</td> </tr> <tr> <td>溝口 麻理子</td> <td>Zoom</td> <td>平島 光洋</td> <td>来庁</td> </tr> </tbody> </table> <p>(事務局) 飛澤賢宏、千葉真知、染谷祐志</p>			氏名（敬称略）	参加方法	氏名（敬称略）	参加方法	三枝 奈芳紀	来庁	竹内 修	Zoom	田中 計	来庁	川口 哲也	来庁	熊切 篤	来庁	水町 裕義	Zoom	大島 拓二郎	来庁	中野 匡	来庁	宮野 京子	Zoom	小柴 奈美	来庁	西川 加代	来庁	重田 友理	来庁	山中 しのぶ	来庁	牧 達人	来庁	亀田 兼佑	来庁	有江 直樹	Zoom	和泉 喜章	Zoom	早川 清子	来庁	村田 泉	来庁	小幡 伸吾	来庁	門屋 千鶴	来庁	三辻 暁美	来庁	溝口 麻理子	Zoom	平島 光洋	来庁
氏名（敬称略）	参加方法	氏名（敬称略）	参加方法																																																					
三枝 奈芳紀	来庁	竹内 修	Zoom																																																					
田中 計	来庁	川口 哲也	来庁																																																					
熊切 篤	来庁	水町 裕義	Zoom																																																					
大島 拓二郎	来庁	中野 匡	来庁																																																					
宮野 京子	Zoom	小柴 奈美	来庁																																																					
西川 加代	来庁	重田 友理	来庁																																																					
山中 しのぶ	来庁	牧 達人	来庁																																																					
亀田 兼佑	来庁	有江 直樹	Zoom																																																					
和泉 喜章	Zoom	早川 清子	来庁																																																					
村田 泉	来庁	小幡 伸吾	来庁																																																					
門屋 千鶴	来庁	三辻 暁美	来庁																																																					
溝口 麻理子	Zoom	平島 光洋	来庁																																																					
6	公開又は 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開      ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開      ・ <input type="checkbox"/> 非公開																																																						
7	非公開の 理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)																																																						
8	所管課	健康福祉部介護福祉課 高齢者支援係																																																						

	電話 0439-80-1300
9 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言要旨
<p>事務局 (飛澤係長)</p>	<p>定刻となりました。</p> <p>本日欠席される旨ご連絡をいただいている方を除き、お集まりいただいております。</p> <p>本日はZ o o mによりご参加いただいている委員の方もおられます。聞き取りにくい等の支障がございましたら、遠慮なく手を上げてアピールしていただければと存じます。</p> <p>会議を始める前に、配付資料の確認をいたします。</p> <p>お配りしたものは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○次第</li> <li>○議題関連資料</li> <li>○グループ分け名簿</li> <li>○グループワークシート（A3）</li> </ul> <p>です。</p> <p>不足がございましたら、資料をお持ちしますので、挙手をお願いいたします。</p> <p>Z o o mでご参加の方は、本日、会議中に画面共有をいたしますので、画面を見ていただければと存じます。</p>
<p>事務局 (飛澤係長)</p>	<p>それでは、ただ今より、令和5年度第2回富津市在宅医療・介護連携推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>また、議事録作成のため、会議の内容を録音させていただいておりますので、ご了承くださるようお願い申し上げます。</p> <p>お手元の次第により、進めさせていただきます。</p> <p>開会にあたり、三枝会長からごあいさつをお願いいたします。</p>

三枝会長	(挨拶)
事務局 (飛澤係長)	<p>ありがとうございました。富津市在宅医療・介護連携推進会議設置要綱第6条に「会長は議長となる」と規定されていますので、三枝会長に議事進行をお願いいたします。</p>
三枝会長	<p>それでは、議長を務めさせていただきます。</p> <p>初めに、私から本日の会議の議事録署名委員の指名をいたします。溝口委員を議事録署名人に指名しますので、よろしくをお願いします。</p> <p>それでは、会議次第に沿って、進めさせていただきます。</p> <p>(1)「各ワーキンググループにおける令和5年度の取組について」を議題といたします。</p> <p>まず、「在宅医療・介護連携部門ワーキンググループの取組について」事務局に報告を求めます。</p>
事務局 (染谷)	<p>それでは、在宅医療・介護連携部門ワーキンググループの取組について報告させていただきます。議題関連資料の1ページをご覧ください。</p> <p>在宅医療・介護連携部門ワーキンググループでは、第1回在宅医療・介護連携推進会議と同日の令和5年6月21日にワーキンググループを実施しました。</p> <p>内容としましては、まず、マイライフノート(エンディングノート)活用のためのセミナーについてですが、(株)鎌倉新書と市が協定を締結し、令和5年4月に富津市マイライフノートを発行しました。ワーキンググループでは、マイライフノートの活用のために、セミナーの日程や内容について事務局から説明をしました。</p> <p>次に、バイタルリンクの普及・活用についてです。</p> <p>令和5年2月に続き、令和5年度中にも勉強会を計画している旨を伝え、勉強会の日程や内容について説明しました。</p> <p>続きまして、グループワークについてです。</p>

ワーキンググループ参加者にてマイライフノートの活用やバイタルリンクの普及・活用等をテーマにグループワークを行いました。

マイライフノートの活用についてとしまして、

○早めて書いてもらうのが良い。

○書けるところから書いてもらう。一人で書けない部分については、デイサービスや事業所に集まった時に一緒に書くなどが書き始めるきっかけになる。

○元気な時に書いて欲しい。富津市いきいき百歳体操に来る方がその場で書いていく。書き方がわからない方がいるので、その場で市職員や包括職員が使い方を教える。

といった意見がありました。

2ページをご覧ください。

バイタルリンクの普及・活用についてとしまして、

○課題として、まだ加入者が少ないために、実際にやりとりが起こっていない。メールの通知機能がないので、メッセージがあるか開かないと確認できず、開いてもほとんどメッセージがないため、バイタルリンク自体を開かなくなってしまう。

○メールとリンクして、加入していない人でもメールには通知が飛ぶような機能が欲しい。

○勉強会をもっとまめに開催する。年1回ではなかなか利用方法などを伝達しづらい。

○実際に使用してみると、会ったことがない方から返信をもらえるなど、交流ができて親近感が沸くなどの経験ができた。

といった意見がありました。

また、困りごとに関するフリートークの中では、

○人材不足、ケアマネ不足について、現在ケアマネジャー

	<p>の数が激減しており、40代中頃の方が若い世代になるなどの現状になっている。今後10年、20年を見据えた時に、20代・30代の方の育成が必要になる。</p> <p>といった意見がありました。</p> <p>3ページをご覧ください。</p> <p>続きまして先週の火曜日、3月12日にマイライフノート活用ビデオセミナーを実施しました。このセミナーは、富津市マイライフノート（エンディングノート）の協働発行事業者である株式会社鎌倉新書の協力のもとに実施しました。</p> <p>行政による趣旨説明の後、マイライフノートの活用方法をはじめとして終活に関するビデオを上映しました。</p> <p>ビデオでは、4つの終活としてエンディングノート、相続と遺言書、お墓選び、葬儀の選び方について説明が行われました。</p> <p>エンディングノートの記入についてとしまして、ビデオ上映後には、鎌倉新書の小谷様から、以下のようなエンディングノートに関するよくある質問について話がありました。</p> <p>Q1.何を書けば良いのか。</p> <p>A1.何を書くのも自由。ただし、優先的に書いておきたい項目として、現在の状況（お金や医療）や、将来の希望（医療や介護など）についての意思がある。</p> <p>Q2.いつ書けば良いのか。</p> <p>A2.いつ書かなくてはならないというものではない。ただし、思い立ったらなるべく早めに書くことがおすすめ。きっかけの例としては、誕生日、大切な人が亡くなった時、大切な人の命日、新しい年のスタート、などが考えられる。</p> <p>Q3.どこに保管しておけば良いのか。</p> <p>A3.盗難に遭いにくく、家族がみつけやすい場所が良い。また、書き始める場所がわからない方には、資料の4ページ</p>
--	---

に掲載しております富津市マイライフノート 24 ページにあるチェック項目にチェックすることからはじめ、項目のうち準備ができていない部分について記入するのが良い。

といった説明がありました。

5 ページに移ります。参加者の質疑としまして、1 つめの、介護をする自分が 60 歳代で 90 歳代の親にエンディングノートを書かせようとしても、自分では意思表示ができない場合がある、という質問に対し、小谷様から、難しい問題ではあるが、エンディングノートに必要な情報を会話のきっかけとしてもらい、聞き取れた情報は代筆などで書き留めておくなどしておくのが良い、と回答をいただきました。

2 つめの質問としまして、エンディングノートを広めていくために、鎌倉新書として今後の展望みたいなものはあるか。という問いに対し、頻繁にセミナーを開催することや、配布場所の提案などをしていき、多くの人の目につくようにしていきたい。というご回答をいただきました。

続いて、参加者の意見としまして、

○終活の必要性を再確認した。参加して良かった。

○今回のセミナーを聞いてエンディングノートを書きたいと思っている。

○マイライフノートを見て、これなら私も書くことができそうに思った。

○1 回目のセミナーであったため、一般論としてはおおよそわかった。具体的なことを友人や親族とも話し合いたい。

といったご意見がありました。

続きまして 6 ページの、マイライフノート活用ビデオで皆—と同日の夜に開催しました、多職種連携情報共有システム・バイタルリンク勉強会についてです。

帝人ファーマ株式会社の伊藤様と富沢産業株式会社の富沢様を講師に迎え、バイタルリンク勉強会を実施しました。

併せて、行政からの趣旨説明や、参加者の皆さまでのグループワークを行いました。

まず、帝人ファーマ株式会社の伊藤様から操作体験会に先立ちまして、バイタルリンクの活用方法についての説明がありました。

○バイタルリンクは、「電子上の連絡ノート」というイメージであり、インターネット上で様々な職種の方が閲覧、コメントできる。

○バイタルリンクの4つの特徴として、

- ①多職種間で時間や場所に左右されずに情報共有を実現
- ②多職種間で診ること、連絡することのポイントの共通化をサポート
- ③バイタルデータを経時的に管理
- ④安心・安全のシステム設計とフォローアップ体制が挙げられる。

といった説明がありました。

続いて、バイタルリンクの操作体験会が行われました。参加者1人から2人に1台ずつタブレットを配付し、実際にバイタルリンクを操作することで、使用方法について知ってもらいました。

また、バイタルリンクの活用事例発表として、富沢産業株式会社の富沢様に講演をしていただきました。講演の内容としては、

○ターミナルの場面にて、褥そうや痛みが鋭い等の相談が増えている。明日にこれを用意してほしいなどとバイタルリンク上の連絡帳に書くと、訪看の看護師やケアマネが来ようかなという話もできる。



	<p>○時系列で書けるので、過去のことも遡ってメッセージを確認できる。</p> <p>○管理者は月 5,000 円。利用者は無料。</p> <p>○在宅に限らなくても、何らかの問題がある患者さんについて情報共有したい、という形でも良いと思う。</p> <p>といったお話がありました。</p> <p>その後のグループワークでは、バイタルリンクを日常の業務に活かせる機会について、在宅医療・介護連携が必要な 4 つの場面でどう活用できるか、または、情報共有の際の手段としてどう活用できるかについて、ご検討いただきました。</p> <p>参加者の意見としましては、</p> <p>○以前よりはわかったが、ハードルが高いと感じた。</p> <p>○実際に体験ができてよかった。入ってくれる事業所が増えて有効に活用できると良いと思った。</p> <p>○鍼灸師などの疼痛ケアも入れて欲しい。</p> <p>といったご意見がありました。</p> <p>最後に、バイタルリンクへの登録のお願いです。</p> <p>資料 8 ページの組織図にあるように、富津市では富津市役所及び各包括が管理者として登録をしています。資料 9 ページにありますように、「君津圏域多職種情報共有システム利用申込書・誓約書」を富津市介護福祉課へ提出し、バイタルリンクの登録をしていただきますようお願いいたします。</p> <p>報告は以上です。</p>
三枝会長	<p>続きまして、「認知症施策部門ワーキンググループの取組について」事務局に報告を求めます。</p>
事務局 (千葉)	<p>それでは、認知症施策部門ワーキンググループの取組について説明いたします。議題関連資料の 10 ページをご覧ください。</p> <p>まず、認知症メモリーウォークについてです。</p>

令和5年10月29日、日曜日の13時からイオンモール富津にて、認知症の方が安心して暮らせるよう、認知症に対する偏見を取り払い認知症という病気の理解を深めるため市民に対して普及啓発を行うという目的で開催されました。

実施内容としては、42名の参加者を警察からの指導に基づき1班7名程度、6班に分け一列で歩行し、事故や苦情なくスケジュールを行うことができました。

一般参加42名、ボランティア21名、実行委員会15名の計78名で実施しました。

続きまして、認知症サポーター養成講座(出前講座)についてです。

いきいき百歳体操に参加している方や、新たにサロン等を立ち上げたところに向け出前講座が行えるように働きかけています。市内の認知症サポーターは令和6年3月現在3,475名となりました。今年度、講座は、5か所で6回の開催となりました。

続きまして、認知症初期集中支援チーム員会議についてです。

平成30年4月に設置され、現在までに初期集中支援チームとして関わっているケースは58名となりました。モニタリング後はケアマネジャーに引き継ぎ、介護サービスの導入が行われています。毎月第3火曜日18時30分から会議を開催しています。

続きまして、公共図書館における認知症カフェの活用についてです。

公共図書館で認知症カフェを行う意義としては、

- 多世代の人に認知症の知識を普及できる。
- 地域住民の参加を促せる。
- 図書館の資料を活用できる。

ということが考えられます。

そのため、富津市立図書館でも認知症カフェが令和5年12月にオープンしましたが、まだ軌道に乗っていないため、認知症地域支援推進員と図書館職員で対応しています。

9月は認知症アルツハイマー月間であるため、図書館の一角を認知症カラーであるオレンジ色にして普及啓発を行うことを目標とし、令和6年度の目標として継続していく予定です。

続きまして、認知症ピアサポート活動についてです。

本人の居場所づくりの一環として、認知症カフェを通じた仲間作りを進めています。2025年までに全都道府県での実施が目指されているため、今後もピアサポート活動を継続したいと考えております。

続きまして千葉県認知症高齢者を抱える家族交流会の開催についてです。

認知症の方を抱える家族が悩みや情報を共有したり仲間を作ったりすることを目的に、『認知症の人と家族の会』千葉支部の方をお招きし、認知症高齢者を抱える方の家族交流会を開催しました。

令和5年11月28日13時30分からイオンモール富津にて富津地区地域包括支援センターにご協力いただきながら8名で実施しました。今後も地域包括支援センターと協力しながら行っていく予定です。

続きまして、千葉県認知症地域医療支援事業について、今年度は、2回目の開催となりました。令和6年1月19日13時30分から望みの門紫苑荘にて、認知症本人3名を含めて28名が参加しました。

認知症カフェを活用し、音楽療法を取り入れている「いどばたの会」のみなさまと実施しました。「ふつつんお絵かき音

頭」を参加者や認知症サポート医の川口先生と一緒に踊ったり、お茶を飲んだりしました。川口先生から記憶をつかさどる脳の解剖生理を解説いただき、参加者と日頃の悩みや情報の共有、仲間づくりを行うことができました。

続きまして、認知症カフェについてです。

認知症カフェは、認知症の人やそのご家族が地域の人や介護・福祉等の専門家と気軽に集い、家族の介護に携わる人の息抜きや情報交換をして、安心して過ごせる居場所です。令和5年12月14日に図書館カフェがオープンしました。認知症カフェの詳細は、議題関連資料の14ページをご参照下さい。

続きまして、認知症サポーター、チームオレンジについてです。

認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守ることからスタートした認知症サポーターキャラバンが第1ステップです。

第2ステップとして、令和元年から、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに向けて、近隣チームによるチームオレンジの活動が始まっています。チームオレンジは、令和7年までには全市町村に設置することとなっています。

富津市では、令和4年10月26日に既存の『岩坂おたすけクラブ』に向け、チームオレンジの講習を受けていただき活動していただいています。その中では、認知症の本人もチーム員となっています。

今年度は、令和6年1月31日、「飯野スマレ会」に、チームオレンジの講習を受けていただき、現在「岩坂お助けクラブ」を含め、2チームが活動しています。

続きまして、認知症とともに生きる希望宣言についてです。

	<p>認知症施策推進大綱では、「認知症とともに生きる希望宣言について『認知症本人大使』を創設すること等により本人等による普及活動を支援する」と明記されています。</p> <p>千葉県においても令和4年12月、ちば認知症オレンジ大使が2名任命されました。どの市町村でも本人発信が当たり前になることを都道府県が推進していくために、地域版希望大使の設置はとても重要であると考えます。</p> <p>富津市でも「認知症本人大使」の設置について準備を進めていきたいと考えます。現状としては、認知症状の進行や程度は変化してしまうことが多く、今日できたことが明日できなくなったりしてしまうことが多いため、本人の負担を考慮し、認知症カフェに参加いただき、一緒に活動を行うなどしています。</p> <p>続きまして、認知症家族の会の立ち上げについてです。</p> <p>「認知症」と診断されると大きな不安や恐怖におそわれることが少なくありません。そのようなとき、同じ立場の仲間が「あなたの苦労は代われないけど、皆で支え合いましょう」と言ってくれる「家族の会」は、認知症の人を見守る家族にとって心強い支えとなります。</p> <p>不安なこと、困ったことがあったときは「家族の会」で一緒に話し合い、また仲間を見つけることができることで気持ちが楽になると考えます。</p> <p>認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を目指すため、富津市においても認知症地域支援推進員を中心にボランティア5名の方で活動予定です。</p> <p>説明は以上です。</p>
三枝会長	説明は終わりました。質問はございませんか。
	(質疑なし)
三枝会長	質問もないようですので、以上で議題(1)を終了します。

	<p>続きまして、(2)「今後の在宅医療・介護連携推進会議の方針について」を議題とします。事務局に説明を求めます。</p>
<p>事務局 (染谷)</p>	<p>(2)「今後の在宅医療・介護連携推進会議の方針について」は、グループワークにて実施させていただきます。</p> <p>グループワークについては、事務局にて進行を引き継がせていただきます。</p> <p>また、事務局にてZoom参加者をグループ分けしますので、グループワークについての説明の後、5分ほど休憩をいただければと存じます。</p> <p>それでは、議題関連資料の17ページ、一番最後のページをご覧ください。</p> <p>グループワークの趣旨は、来年度の在宅医療・介護連携推進会議において実施したい活動や研修等をあげていただき、その目的や期待できる成果についてご検討いただくことです。実現可能性の高い低いに関わらず、ご自由に意見を出していただければと存じます。</p> <p>時間は、20分とさせていただきます。</p> <p>グループワークの手順をご説明します。</p> <p>まず自己紹介のうえ、司会進行と書記を決めてください。決め方の例として、司会は、本日、起きた時間がいちばん遅い方をお願いします。書記は、本日、起きた時間がいちばん早い方をお願いします。といった方法があります。</p> <p>次に、配布資料のグループワークシート（在宅医療・介護連携推進会議年間予定）を参考にいただき、行った方がよいと思う会議・活動や受講してみたいセミナーについて、お一人ずつご意見を挙げてください。現時点で記載されている予定のついての実施内容や実施時期、回数についてのご意見でも構いません。全員の発表が終わりました</p>

	<p>ら、こういった成果が期待できるか等自由にご協議いただきたく存じます。</p> <p>20分ほど経ちましたら、お時間の許す限り、司会または書記の方に、出たご意見の発表をお願いいたします。</p> <p>大変お手数ですが、会の終了後、書記の方は、グループワークシートを事務局へご提出ください。</p> <p>説明は以上です。</p> <p>それでは、これから7時20分まで休憩とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p>
	<p>【休憩】</p> <p>【グループワークの実施】</p>
事務局 (染谷)	<p>お時間となりました。それでは、まず会場のグループAから発表していただければと存じます。発表していただく方には、マイクをお持ちします。</p>
グループA (大島委員)	<p>Aグループから発表いたします。</p> <p>在宅医療のほうに関しては、マイライフノートの活用をしていただく方を増やすために、まず講習会の数を次年度は増やして、実績を積み重ねていくというのが必要ではないかという意見が出ました。そこでいろいろな問題が出てくるかと思うので、そういうものをまとめ上げて、また次年度に向けていろいろと揉んでいくという形が必要であろうというところが1つです。なお、行う時間帯に関しても、お昼以外の夕方とか、いろいろな仕事の関係で時間が取れない方もいらっしゃると思うので、少し時間を変えながら行うというのも大事だろうというところも、次年度は考えてやってみるといいんじゃないかという意見がありました。</p> <p>バイタルリンクに関しては、これも結局使い慣れた方がほぼいないという現状もありますので、やはり複数回の勉強会を行っていくということが必要だという意見になりました。</p>

	<p>事業所が手上げ制でやりたい人が登録している現在の状況を、各事業所必ず1人は登録してもらうということをタスクみたいな形でした方がいいのではないかとこのころです。そういった問題も依頼文などを作って、市の方から依頼をかけて増やしていく必要があるだろうと、これも次年度にやっていくと面白いかもしれないというところがもう1つです。</p> <p>あとBCPに関して、最近地震も多いということもあるので、避難場所とか、そういった場所で会合の場所を作るとか、もしくは各事業所でマニュアルはあるだろうとは思いますが、実際その中でも被災している職員もいるだろうから、その周辺の他の事業所の助けをどういう風にしていくかというの、いろいろと構築していく必要があるのではないかと、といったところを市の方でまとめてやっていただくような形が良いのではないかとこのころです。</p> <p>認知症の方に関してはあまり話す時間がなくなってしまったのですが、メモリーウォーク以外でもイオンとかを使い、フロアが空いているところもあるので、そういったところでPR活動などをしていくと良いんじゃないかとこのころでした。</p> <p>以上です。</p>
<p>事務局 (染谷)</p>	<p>ありがとうございました。 続きまして、グループBの方、発表をお願いいたします。</p>
<p>グループB (田中委員)</p>	<p>グループBの次年度に向けてのそのセミナーなどの提案です。Aグループと少し重なってしまっていて、バイタルリンクの実際に使っている方々の経験談とか、実際の内容を、匿名式でもいいので会議を開いて、こういう問題があった時に他職種でアイデアを出し合うなどの会議がバイタルリンク上で開催されると面白いのではないかとこのころです。</p>



それによつての成果ですけれども、やはりここの利用者さんに対してのサービスの向上や安全性、また報告、連絡、相談といったような報連相の活発化といいますか、緊急性のないけれども、今日中に見ておいてもいいぐらいの報告などが、やはり ICT によつて行われるのがこれからは時代だろうという意見が出ました。

また、やはり災害が心配事となつていまして、各施設での BCP 計画を作ることが今度の診療報酬改定の際に影響があるようでして、作らないといけないという方向になつてゐるようです。各施設で作つたけれども、実際困つたときに公的な市役所にはどういったところの手助けをしてもらつたらいいのかということが心配だという意見が出ました。

全体が心配ではあると思うんですが、具体的には在宅酸素をしてる人の対応、施設入所で酸素を投与してる人の対応について、その発電機を回せるような施設はどこにあるのかといった情報を知りたいという第 1 希望がありました。在宅酸素の業者である帝人さん（帝人ファーマ株式会社）がそういう災害時に結構動いてくれるというような情報もありますので、そういった共有があればよろしいかと思ひます。

また、君津中央病院のリハビリ科の児玉先生が JMAT（日本医師会災害医療チーム）に所属していまして、そういった知識を災害時の対応など詳しい情報を持っていらつしゃるということで、ぜひセミナーを開いていただきたいという意見がありました。

また最後に、これはちょっと離れますけれども施設間での便秘対策、便通対策ということは、各施設でノウハウを持っていらつしゃると思うんですが、薬の使い方とかつていうのはなくて、こういう患者さんがこうやってるよというふうなつていうのを、各施設のコツとかもですね、出し合つて、そ

	<p>れを一つにまとめ上げるというか、こういう患者さんにはこういう薬を最初に使う、2番目に使うなどというのを共有していく会議も面白いと思っております。</p> <p>以上です。</p>
事務局 (染谷)	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、グループCの方、発表をお願いいたします。</p>
グループC (三辻委員)	<p>グループCとしましては、Aグループ、Bグループと同じように、年間予定の中のバイタルリンクの操作体験会を頻回で行ったほうが良いのではないかという意見が出ました。成功体験などを聞くと使いやすさなどもわかるので、これはちょっと回数を増やした方がいいんじゃないかということです。</p> <p>また、能登半島の地震を受けまして、災害時のネットワークとしての基盤を整備してほしい、誰がどう動くのかとか、安否確認なども含めて誰が行うかなど、バイタルリンクを絡めて上手くネットワークが構築できないか、という意見が出ました。</p> <p>まず認知症の方を避難させるという場合に、どう避難させるのかとかシミュレーションを行って、実際に災害時の訓練、避難体験のできるイベントを行ってみてはどうか、という意見も出ました。あと各医療機関、事業所で水や発電機をどのくらいサポートできるかなどの共有ができれば、市全体としても、医療機関としても先の見通しがついて動きやすくなるのではないか、という意見もありました。</p> <p>ただし、富津市全体だと広いので地域を細分化して、医療を含めて動きやすくネットワークを作っていくってはどうかという意見も出ました。</p> <p>以上です。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p>

(染谷)	<p>続きまして、グループDの方、発表をお願いいたします。</p>
<p>グループD (村田委員)</p>	<p>グループDでは、いっぱいある中の、やはりバイタルリンクのみの話し合いになってしまって、それ1個で終わってしまいました。</p> <p>バイタルリンクの操作体験会というのをやられた時に参加した西川委員に意見を聞きつつ、話をしたのですが、操作体験会はすごく良かったということでした。やっぱりやってみて、こんなに繋がりがあって、連絡しやすいものだということがわかったということで、やっぱり体験させていただいて訪問看護の方でも活用できると感じたと思うのですが、やはり皆さんに広げないと繋がっていかないと思います。この間の研修会は大雨で人数が少なかったようなんですけど、やっぱり年1回だけでは少ないのではないかという意見で、前期に1回、5月ぐらいにもう1回バイタルリンクの操作体験会をやっていただきたいです。</p> <p>それから、部門の長が申立てをしてから始まるものなので、部門の長にも一緒に参加していただけたらその必要性を理解していただけて、話しやすいのではないかという意見も出ました。</p> <p>やっぱりバイタルリンクの認知度を上げるためには、そういう研修会の回数を増やすことも大事だし、あとはちょっと過激なのですが、強制的に参加を促すものがあればと思います。</p> <p>あとはスタッフのほうなのですが、常に触れて見なくてはいけないとか、どの時点でバイタルリンクを見れば良いのかということやはり仕事が増えてしまう、そういう危惧されるものもあるので、研修会等を開いて意見を吸い上げて解決していただきたいと思いますので、研修会の回数を増やしてくださいという意見で終わりました。</p>

	<p>以上です。</p>
<p>事務局 (染谷)</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、Z o o mグループ1の代表者の方、発表をお願いいたします。</p>
<p>Z o o m グループ1 (宮野委員)</p>	<p>それでは、たんぽぽ薬局の宮野です。</p> <p>今回Z o o mグループ1のほうでは予定の方から見ていきまして、認知症メモリーウォークに関してはこのまま継続して欲しいということです。</p> <p>マイライフノート活用ビデオセミナーですけれども、この前のビデオセミナーを見たんですけれども、もうちょっと何か落とし込んで、一般向けの使い方の説明があってもいいんじゃないか、という話が出ました。どうしても、年配の方ってみんな埋めたがるんですが、書き込みたがるとだいたい行き詰ってしまうので、そういったところも入れられるところから記入していけばいいんだよと、そういったところからちょっとアプローチしてあげたらいいんじゃないか、という意見が出ました。</p> <p>あとバイタルリンクの操作体験会ですけど、これは他の方々と同じで回数を増やして実例を出していただくとか、もうちょっとやっていただけるといいんじゃないかという形で話がありました。</p> <p>最後に時期未定になってるんですけど、暴力ハラスメント防止研修会はぜひやっていただきたいということで、これは施設側もあるし、利用者さん側からっていうのもどう対処したら良いかっていうのも含めて、ちょっとやっぱり一度話を聞いてみたいっていう方が多いと思うので、なるべく門戸を広げて多くの人に聞いていただきたいと思います。</p> <p>ちょっとこれは予定表にはないんですけど、認知症カフェですが、今も結構各施設でいろいろやっていただいている</p>

	<p>んですけれども、まず名前はやっぱり認知症っていうタイトルにしなくても、他のところでもかわいい名前がついたりするんですけど、そんな名前を全面に押し出していくと良いんじゃないかという話がありました。あと施設さんにおまかせしているの、結構施設側の負担が大きいのではないかと考えて、そちらの方を何とか少し減らす方向にボランティアさんを入れるとか何かできれば、回数とかも増やしていけるんじゃないかな、という意見が出ました。</p> <p>以上です。</p>
事務局 (染谷)	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、Zoomグループ2の代表者の方、発表をお願いいたします。</p>
Zoom グループ2 (溝口委員)	<p>このグループは、主にバイタルリンクのお話をしました。バイタルリンク、何回か研修会をやってはいますが、実績としてはなかなかうまく活用について浸透していないというところもあり、何が問題なのか原因を確認する必要がある、というところから始まりました。</p> <p>そして、うまく活用できる方法や、関係者のメリットについて確認がする必要があることや、そのために研修会をもっと開いて意見を出すなど、バイタルリンク活用や医療介護連携について盛り上げていくためには、基盤を整える必要がある、という意見が出ました。</p> <p>以上です。</p>
事務局 (染谷)	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、三枝会長に再び進行をお願いできればと存じます。</p>
三枝会長	<p>はい。長時間にわたりありがとうございました。</p> <p>以上、各グループからの発表がありました。皆さまから何か質問はございますか。</p>

	(質疑なし)
三枝会長	<p>よろしいでしょうか。それでは、本当にいろいろな意見が出ましたので、市の方でよく吟味していただいて、また計画を立てていただければと思います。</p> <p>それでは、以上で本日の議題はすべて終了しました。委員の皆さまから「その他」で何かありますか。</p>
	(質疑なし)
三枝会長	<p>よろしいでしょうか。それでは、事務局から何かありますか。</p>
事務局 (飛澤)	<p>2点、ご連絡いたします。</p> <p>1点目です。本日の会議録等は、市のホームページへ公開いたします。準備ができましたら、メール等で委員の皆さまへ周知いたします。また、本日のグループワークシートについて、会場参加の書記の方は机上に置いてお帰りいただければと思います。Z o o mでご参加いただいた方については、グループワークシートをF A Xまたはメールで送っていただければと思います。</p> <p>2点目です。本会議の委員の皆さまの任期が今月末をもちまして満了となります。委員の皆さまにおかれましては、公私ともお忙しいなか、2年間委員を務めてくださり、誠にありがとうございました。</p> <p>また来年度も委員を務めていただく皆さまにおかれましては、4月以降も引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>事務局からは、以上です。</p>
三枝会長	<p>それでは、以上をもちまして、令和5年度第2回富津市在宅医療・介護連携推進会議を終了いたします。</p> <p>長時間にわたりお疲れさまでした。</p>